令和２（２０２０）年度　御船町立高木小学校　学校便り

目指す学校像
地域とともにある
勢いのある学校

高き志【こころざし】

No. 28（R2. 12. 7発行）文責　校長　福田雅也

試合中に「バナナ」？

突然ですが今回は、ヨーロッパサッカーの話から入ります。

６年ほど前のことになります。スペインリーグの試合中に、ある選手がピッチ上でバナナを食べるという事件が起きたのをご存知でしょうか。ご存知ない方は、「何の話だ」と思われることでしょう。少し詳しく説明すると、２０１４年４月２７日に行われたビジャレアル対バルセロナ戦でのことです。コーナーキックを蹴ろうとしたバルセロナの黒人選手であるダニエウ・アウベス選手に対して、スタンドからバナナが投げ込まれました。それまでも、ヨーロッパサッカーの試合では、黒人選手に対してサルの鳴きマネや差別用語があびせられたり、サルのえさでもあるバナナが投げ込まれたりすることが起こっていたそうです。

ここまで読まれたら何の話かお分かりになったと思います。人権に関わる話なのです。

この行為に、アウベス選手は実にユニークな対抗策を見せました。なんと、ピッチ上に落ちたバナナを拾い上げ、皮をむいてそのまま口に放り込んで食べてしまったのでした。そして、何事もなかったかのようにプレーに戻り、すぐさまコーナーキックを蹴ったのだそうです。

ご存知のように、学校では「人権教育」を教育活動の根底に据えています。すべての教育活動は、常に「人権尊重の精神の涵養を図る」ことを含んで、あるいは目指して、進められています。そして、現在、高木小学校は人権旬間中で、子どもたちは人権に関する学習に取り組んでいます。それらの中で、コミュニケーション能力の一つとして「アサーション」という手法を学ぶことがあります。アサーションとは、「より良い人間関係を築くための、自分も相手も大切にした自己表現法」と説明されます。分かりやすく言えば、「自分が嫌だった気持ちを、できるだけ相手を傷つけず、人間関係をこわさずに伝える。」ということになると思います。

先ほどの場面では、もちろん、投げ込んだ人物が１００パーセント間違っています。しかし、アウベス選手はそれに怒りで対応するのではなく、それをぐっと押さえ、投げ込まれたバナナを食べてしまう。そして、何事もなかったようにプレーを続ける。このことで、受けた行為の理不尽さと、投げ込んだ人物への抗議の意思を伝えたのでしょう。アウベス選手自身が意識していたかどうかは分かりませんが、この行為は「アサーション」に含まれると考えていいのではないでしょうか。

この事件は、そのまま子どもたちの教材にはできませんが、子どもたちにはこのような「アサーション」の力を身に付けてほしいと願っています。むしろこの事件は、私達が「人権感覚」を磨く材料になるのでしょう。バナナを投げ込んだ本人が、バナナを食べるアウベス選手をどのような顔で、どのような気持ちで見ていたのでしょうか。

アウベス選手は、この後のブラジルワールドカップで、ブラジル代表のディフェンダーとして参加し、活躍しました。また、この事件をきっかけに、ブラジル代表のチームメイトであるネイマール選手が、自分の子どもと一緒にバナナを食べる場面をネット上にアップしたり、当時はインテルに所属していた長友選手が、チームのメンバーと一緒に同様のパフォーマンスをアップしたりと反響が広まったそうです。